

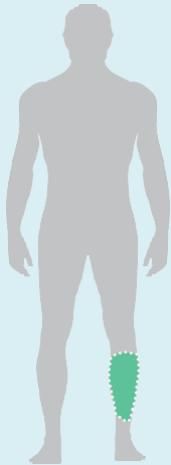
深達性部分層熱傷におけるRECELL[®]システムを使用した治療により、標準的植皮術に比べ、採皮面積が97%縮小

CASE STUDY / Kevin Foster, MD, MBA, FACS / Arizona Burn Center, Phoenix, AZ

患者の状態

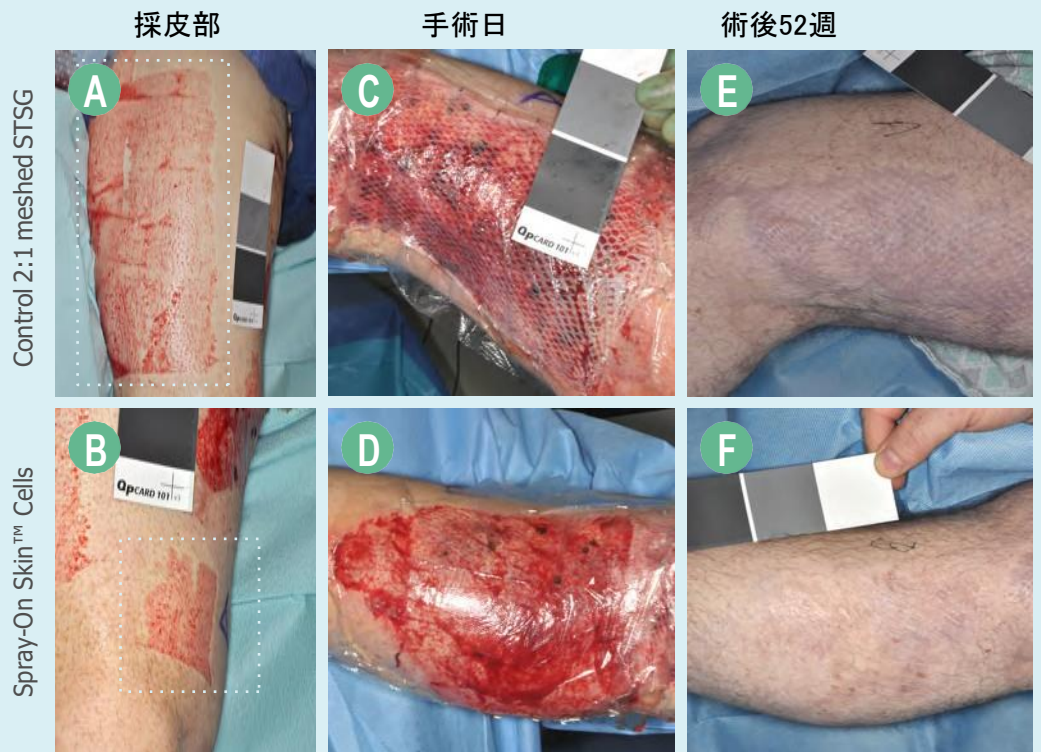
両足に火炎による深達性部分層熱傷を受傷した43歳男性。本症例では2:1網状植皮で治療を行った左脚上部とRECELLで治療を行った左脚下部にフォーカスしている。

RECELL治療部位



結語

本症例では、RECELLを使用し深達性部分層熱傷の治療を行うことにより、標準的自家植皮術に比べて採皮面積が97%縮小され、結果として短期・長期の治療アウトカムに妥協する事無く、採皮部の疼痛が軽減できる事が示された。



治療法

この患者に対する治療は、前向き無作為比較試験の一環として実施された。受傷5日後に比較のために創部を2か所に分けた。STSGの採取(図A)を行い、2:1の倍率でメッシュ加工の上、コントロール部位に移植(図C)した。Spray-On Skin[™] CellsをRECELLシステムで採皮片を加工して作成し、適用(図D)。両治療部位をTelfa[™] Clearで被覆(図C&D)し、その上からXeroform[™]及び厚みのあるドレッシング材で滲出液の吸収と再生過程にある表皮の保護を行った。

臨床的アウトカム

熱傷治療にRECELLを使用する事により、2:1網状STSGに比べ、採皮面積が97%縮小が可能となった。術後1週にはRECELL治療部位とその採皮部は、2:1網状STSGとその採皮部と同様に治癒した。0~100で評価を行い、100が最も激しい疼痛を表す疼痛評価では、術後1週目にSTSGの採皮部が33であったのに対し、RECELL採皮部は14であった。52週目に0~100で評価し100は非常に優れていることを表す整容性評価では、2:1網状STSG治療部位(図E)が66であったのに対し、RECELL治療部位は79であった。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

